

2009 Japan- Korea Joint Technical Workshop on Semiconductor Power Converter

June 26 – 27, 2009, Tochigi, Japan

電気学会・産業応用部門では国際化を積極的に進めている。この国際研究会は、その一環として我々産業応用部門と Korean Institute of Power Electronics (KIPE) の双方の SPC 技術委員会が合同で開催したものであり、昨年韓国大田(Daejeon)市で開催されたのに続き、今年は日本で開催した。

開催場所は温泉、リゾート地としても知られる栃木県那須高原にあるホテルエピナール那須である。研究会にしては豪華なホテルであり、雰囲気もひと味違った研究会となった。発表論文は韓国から 10 件、日本から 8 件に加え、台湾からも 1 件の発表があり前回より一歩踏み込んだ国際化となった。参加者は韓国側 9 名、日本側 24 名、台湾 1 名と盛況であった。また、各セッションでは座長を双方から出して講演を韓日交互に行ったり、合同懇親会を設けたりして、技術・文化の両面での日韓交流を図った。

初日には、16 時からオープニングセレモニーを行い、その後お互いの最新技術について発表が行われた。扱われたテーマは半導体電力変換技術一般と、非常に幅の広い領域であり、様々な意見交換が行われた。特に電源高調波の規格や製品仕様に関する認識の違いは国の違いを感じさせ、非常に有意義なものであった。

1 日目の夜には温泉を堪能したのち日本式の浴衣スタイルで懇親会を実施し、日本の温泉宿の料理を堪能した。時間が進むうちに、膝をつき合わせての意見交換や情報交換が行われ、交流を深めた。

2 日目は朝 9 時から再び論文発表が始まり、昼食を挟んで夕方 18 時まで長時間にわたり、白熱した議論が繰り返された。各論文発表とも質疑は多く、日韓双方の関心の高さが伺えた。セッションの最後にクロージングセッションを行い今後のますますの交流、発展をしていくことを確認した。なお、2 日目も韓国側の参加者は宿泊したため、再度日本側参加者と一緒に夕食をとり、さらに親睦を深めた。

この研究会では、ますます日本と韓国の結びつきが重要であることを再確認し、今後の Joint Technical Workshop のあり方についても、懇親会をはじめ、お互いに話し合った。例えば学生の教育、交流を視野に入れてポスターセッションの開催や、最新の技術トピックに関するパネルディスカッションなど様々な形態が提案され、今後の発展、交流強化に向けて意見交換がされた。今後は KIPE とさらに協議を重ねながら次回開催について検討していく。



写真 1 会議の様子



写真 2 懇親会の様子



写真 3 参加者

伊東淳一 (長岡技術科学大学)
(平成 21 年 8 月 3 日受付)